

公益社団法人 日本青年会議所	
関東地区 茨城ブロック協議会	
J C ブランド確立委員会 委員長 井上 雅皓	
現 状 分 析	現代は異業種の人たちとのつながりを求める人が減り、社内とネット上のつながりが重視されていますが、一方で若者の社会貢献意識は上がっており、改めて魅力や強みなど J C の価値を発信していく絶好の機会となっています。
目指すべき状態	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1, 0 0 0 名の会員が J A Y C E E としての誇りと自覚を持っている状態。 ■ 入会候補者など県内約 2 8 0 万人のうち 5 0 % の人々が J C の最新情報が認知している状態。 ■ 茨城ブロック協議会内各地会員会議所会員の広報に対する意識変革が行われている状態。 ■ 各地会員会議所会員同士の絆が深まり情報の流動性円滑となっている状態。 ■ 茨城ブロック協議会内で行われる事業の情報が茨城県全体の魅力発信とリンクしている状態。
連 携 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ■ 青年会議所の迅速かつ効果的な情報と魅力の共有 迅速に最新情報を収集し、効果的な情報を事務局や委員会メンバーと連携し、精査することで正確で魅力ある情報を共有できます。 ■ 持続可能な広報戦略を用いたロールモデルの創出 茨城ブロック協議会及び青年会議所を持続可能な団体にしていくために、各委員会と連携し事業報告を参考にしながら、今後どのような広報すればいいのかを精査します。 ■ 茨城ブロック協議会内各地会員会議所の広報力の向上 2 0 1 7 年に日本 J C が行った J C ブランディングの内容を参考に、委員会内で最新版にアップデートし、内容を茨城ブロック協議会全体で共有できるよう、構築します。 ■ 茨城ブロック協議会から発信する J C ブランドの確立 J C が J C であり続けるために、委員会メンバーで J C プロトコルの意義を共有し各地会員会議所の魅力向上と J C のステータス、ブランドイメージの向上を目指します。 ■ 新たな価値創造と J C を分かりやすく発信する運動及び支援 発信する情報が茨城ブロック協議会に出向していないメンバーなど、隅々まで情報が行き届くよう、事務局や委員会メンバーと連携し、より良い発信ツールを構築します。 ■ 広報戦略からの会員拡大の支援 J C を知ってもらえる様々なツールを活用し、認知度を向上させることで J C に興味を持ってもらい、会員の拡大につなげます。
S D G s	【11・17】
政 策 手 法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 青年会議所の迅速かつ効果的な情報と魅力の発信 情報発信の基本的な施策を実施し、スピード感を持った、より効率的な発信を行い また、定期的に見てもらえるよう、情報豊かな HP や SNS を構築します。 ■ 持続可能な広報戦略を用いたロールモデルの創出 2 0 2 0 年度に行った広報戦略を分析し、J C 運動を発信するうえで効率的な発信方法を確立し、未来に引き継げるようなロールモデルを創出します。 ■ 茨城ブロック協議会内各地会員会議所の広報力の向上 2 月に広報戦略会議を実施し、1 会議、4 委員会、2 3 L O M の広報幹事や広報担当者と連携し、また例会や事業などの情報を共有し、アドバイスをを行い、発信します。 ■ 茨城ブロック協議会から発信する J C ブランドの確立 6 月に J C ブランドというものはどういうものかを再確認する事業をメンバー向けに開催し効果的なブランド戦略を行うための人材を育成し、発信力をより強力なものにします。 ■ 新たな価値創造と J C を分かりやすく発信する運動及び支援 対内向けの機関誌を 3 回発行し、茨城ブロック協議会の運動を効果的に且つ詳細に発信し また各 L O M に対して広報支援と情報の共有を行います。 ■ 広報戦略からの会員拡大の支援 拡大につながる広報誌を 1 回発行するとともに、特色ある事業を積極的に HP や SNS で迅速かつ詳しく紹介し、運動を入会候補者などにアプローチします。
パ ー ト ナ ー	県内 2 3 L O M、組織改革推進会議、ブロック大会運営委員会、グローバル人材育成委員会、政治・防災意識向上委員会、SDG s 社会実現委員会、つくばん、茨城新聞、NHK 水戸放送局、茨城放送、県内ケーブルテレビ 5 局